

郷土読本「わたしたちの 桜井市」

令和 7 年 3 月 31 日 十七訂版発行

この郷土読本は、社会科の副読本として作成されています

第 4 章では「桜井市のようなすのうつりかわり」を学びます。

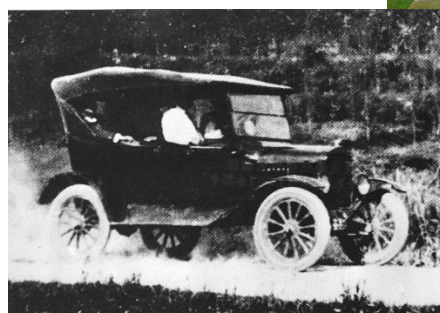
桜井駅ができたころの様子

明治 26 年(1893)に国鉄(現在の JR)の桜井駅が開業し、明治 42 年(1909)には大阪電気軌道(現在の近鉄)も開業しました。

駅ができたことで、鉄道を使って、遠くまで木材を運べるようになりました。そのため、吉野や宇陀の木材が桜井駅に集まるようになりました。そして、桜井駅のまわりに木材に関係のある工場が増えました。

大正 6 年(1917)
奈良県で初めてバスが桜井～宇陀で通りました。

写真提供：奈良交通



桜井市ができたころの様子

昭和 30 年(1955)に大三輪町と合併して桜井市となりました。

桜井市ができたころは、バスが町の中を走っていましたが、今のように舗装された道ではなく、土の道だったため、バスが通るとほこりが舞って大変でした。桜井駅前には映画館があって、父親に連れて行ってもらって映画を見ました。また、休みの日には商店街が人であふれるほどにぎわっていました。



昭和 31 年(1956) 桜井駅の周りの様子
写真提供：奈良県立図書情報館



昭和 31 年(1956) 桜井駅の様子
写真提供：奈良県立図書情報館